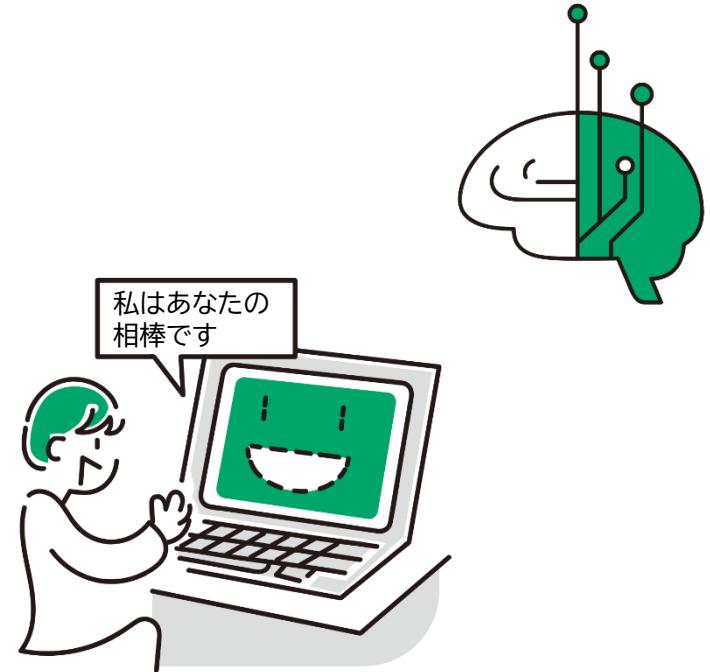




# 文章生成AI 利活用 ガイドライン

第1.0版 令和7年3月  
芽室町政策推進課 (DX担当)





# はじめに

このガイドラインは、芽室町で初めてとなる文章生成AIの利活用ガイドラインです。

業務に文章生成AIを活用する際には、本ガイドラインをしっかりと読んでください。

ChatGPTをはじめとする文章生成AIは、職員の皆さんの業務のあり方を大きく変革する可能性を秘めている一方、様々なリスクも指摘されています。このため、業務での活用にあたり期待する効果を得るためには、その特性をよく理解し、正しく利用することが重要です。

文章生成AIという新たな技術を正しく使いこなし、業務効率化に役立て、行政サービスの質を高めていきましょう。

なお、本ガイドラインは、東京都デジタルサービス局の「文章生成AI利活用ガイドライン（Version 2.0）」、「兵庫県生成AI利用ガイドライン（第2.1版）」及び音更町総務部情報システム課の「文章生成AI利活用ガイドライン（第1.0版）」を参考に、加筆修正のうえ作成しています。

東京都：[https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/digitalservice/ai\\_guideline/](https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/digitalservice/ai_guideline/)  
兵庫県：[https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk26/johoseisaku/ai\\_project.html](https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk26/johoseisaku/ai_project.html)  
音更町：担当部署からの参考文書共有による



# 目次

はじめに	2	3章 効果的な活用方法	
1章 文章生成AIについて		1 有効な活用分野	17
1 文章生成AIの特徴	5	2 使い方のコツ	18
2 文章生成AIの活用可能性とリスク	6	資料	
2章 利用上のルール		1 学習に使われるとは？	20～21
1 利用する生成AI	8	2 活用事例集	22
2 「マサルくん」の特徴	9	改定履歴	23
3 職員が守るべきルール	10～15		



---

# 1章 文章生成AIについて

---



# 1 文章生成AIの特徴

AIに対してプロンプト※を与え、文章を生成することができる人工知能のひとつで、**人間の業務・作業をサポートするツール**として活用が期待されています。

これまでAIがデータを基礎とした結果を予測し、人間が具体的な対応策を生み出してきました。

一方、文章生成AIは**プロンプトに対するテキストを対話形式で応答することで利用方法が簡便である**ことが、これまでのAIとは大きく異なることに注目が集まっています。

※指示、命令文のこと

## 2 文章生成AIの活用可能性とリスク

生成AIの登場、そしてその性能が格段に向上する中、社会の様々な分野において活用が広がる可能性があります。

本ガイドラインで取り上げる文章生成AIについても、これを適切かつ効果的に活用することで、これまでにない形での生産性の向上や、社会課題の解決につながる可能性を秘めており、AI活用に向けた検討や取組を進めていく必要があります。

しかし、その原理は「ある単語の次に用いられる可能性が確率的に最も高い単語を出力する」ことで、**もっともらしい文章を生成していくもの**であることから、文章生成AIには回答の不正確性や著作権侵害、情報漏えいなど、様々な問題が指摘されており、**文章生成AIが生成した回答の根拠や裏付けを必ず確認することが重要です。**

行政分野での活用にあたっては、こうしたリスクへの対応が必要です。



---

## 2章 利用上のルール

---



# 1 利用する生成AI

## 公務員業務の専用ChatGPT 「マサルくん」

(提供：日本DX地域創生応援団)

<https://digital-supporter.net/masaru/index.htm>

を利用してください。 (登録済み)

(これ以外のサービスについては安全性確認を行なっていません。)

## 2 「マサルくん」の特徴

- **入力内容は学習データとして保存されません**

- 有償APIという仕組みを使っています。その費用は「日本DX地域創生応援団」に加入する企業や団体の会費により賄われています。

- **行政向けに追加学習をしています**

- 文章生成AIは、前述のように「ある単語の次に用いられる可能性が確率的に最も高い単語を出力する」という仕組みで文章を生成していますので、質の高い回答を得るために、それぞれの分野に応じた学習が重要です。

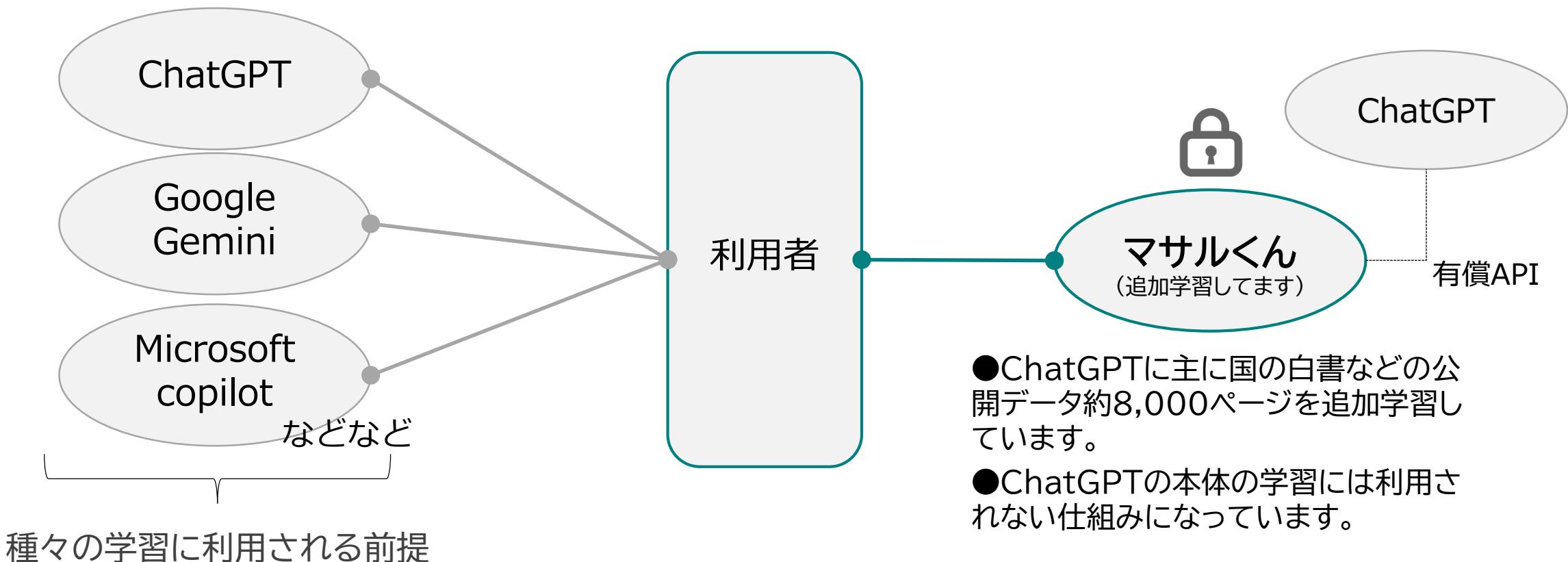
- 省庁の〇〇白書・〇〇計画などを始めとする文書約8,000ページを追加学習させ、回答の最適化を図っています。

### 3 職員が守るべきルール

1. 定められた文章生成AIを利用する
2. 個人情報等、機密性の高い情報は入力しない
3. 著作権保護の観点から、以下の点を十分注意し、確認する
  - a. 既存の著作物に類似する文章の生成につながるようなプロンプトを入力しない
  - b. 回答を配信・公開等する場合、既存の著作物等に類似しないか入念に確認する
4. 文章生成AIが生成した回答の根拠や裏付けを必ず自ら確認する
5. 文章生成AIの回答を対外的にそのまま使用する場合は、その旨を明記する

# 1. 定められた文章生成AIを利用する

可能な限りの安全性確認がされた選択肢として、【マサルくん】を利用して下さい



## 2.個人情報等、機密性の高い情報は入力しない

文章生成AIは外部サービスに該当し、セキュリティ対策はサービス提供者に依存しますので、機密情報や未公開情報を入力すると、万が一の場合、情報漏えいにつながるリスクがあります。

【マサルくん】を用いても、リスクがなくなるわけではありません。

### 入力不可の情報

- 芽室町情報公開条例第8条及び第9条の「不開示情報」
- 個人情報保護法第2条第1項の「個人情報」

### 入力には注意を要する情報

- 地方公務員法第34条の「職務上知り得た秘密」

入力してよいかを考えるにあたっては、

【観点1】個人情報の目的外利用に当たる可能性

【観点2】生成AI事業者が個人情報を利用する可能性  
にも注意を払う必要があります。

### 3.著作権※1保護の観点から、 以下の点を十分注意し、確認する

- a. 既存の著作物に類似する文章の生成※2につながるようなプロンプトを入力しない
- b. 回答を配信・公開等する場合、既存の著作物等に類似しないか入念に確認する

単に他人の既存著作物、作家名、作品の名称を入力するだけの行為は、直ちに著作権侵害に該当するとは限りません。

ただし、生成されたデータが、プロンプトに入力したデータや既存の著作物と同一・類似している場合は、当該生成物の利用が当該著作物の著作権侵害になる可能性もあります。

特に生成物を配信・公開等する場合には、生成物が既存の著作物に類似しないかの調査を行うようにしてください。

※ 1 著作権、特許権、個別の契約上の権利関係を含む

※ 2 「作家○○の作品△△に似せて文章を生成してください」とプロンプトに入力する場合や、著作物をそのままプロンプトに入力し、当該著作物に類似した文章を生成させる場合 等

## 4. 文章生成AIが生成した回答の 根拠や裏付けを必ず自ら確認する

文章生成AIが生成した回答は表現・言い回しが自然であるため、正しいと感じてしまいますが。

しかし、最新の情報を反映していなかったり、偏った価値観、アンコンシャスバイアス※等が反映されてしまうこともあるなど、必ずしもその内容が「正確」とは限りません。

**参考としながらも、「うのみ」にしないことが重要です。**

※自分自身は気づいていないものの見方や捉え方のゆがみや偏り

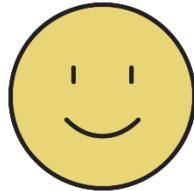
## 5. 文章生成AIの回答を 対外的にそのまま使用する場合は、その旨を明記する

内容を確認した後、翻訳文や要約文等、文章生成AIの回答を対外的にそのまま使用する場合は、「**文章生成AIにより作成**」と記載することで、生成された文章がAIによるものか人間によるものかを読み手に伝えることができます。



## 3章 効果的な活用方法

# 1. 有効な活用分野



向いている！

## 文書作成の補助

- ・文章の要約、言い換え、翻訳
- ・文案作成

## アイデア出し

- ・考えの整理(壁打ち)
- ・事業企画におけるペルソナ※分析
- ・新年度にデジタルツールの活用案提示 等

## QRコード等の生成

- ・表計算ソフトの関数等の生成

※データを基に作った架空のユーザーが満足するように、サービス等を設計するマーケティング方法



不向き…

## 検索(最新情報、正確性が必要な情報 等)

- ・インターネット上の最新情報を常に学習しているものではありません

## 数学的な計算等

- ・算数の問題を解くのは不得手といわれています

## 2.使い方のコツ

文章生成AIから応答を引き出すための指示・命令文のことを『プロンプト』と呼びます。

回答は、プロンプトをもとにしか出力されないため、**条件を提示せずに漠然と入力するだけでは、質の高い回答は得られません。**

そこで、最初に必要な情報を引き出し、プロンプトの入力を重ねることで、質の高い回答に近づけることができます。



### step1

必要な情報を引き出して整理する

- ①立場をはっきり  
行政分野や立場、文章生成AIに与える役割 等
- ②目的・背景を具体的に指定  
前提条件、課題を整理
- ③出力形式を指定  
文字数、箇条書き、言語 等



### step2

視点を加えて高度な回答を導く

- ④プロンプトを重ねて回答をブラッシュアップ  
追加質問や、Step1でうまく回答を得られなかった  
①～③の情報を再度入力

# 資料



# 1 学習に使われるとは？

【Google Geminiアプリのプライバシー ハブ】には  
どのように書かれているのか

どのような種類のデータが収集され、どのように使用されますか？

## ● 収集されるデータの種類

Geminiアプリとユーザーのやり取りにおいて、Googleは以下のユーザーの情報を収集します。

- Gemini アプリとの会話
- 位置情報
- フィードバック
- 利用状況情報
- Geminiをモバイルアシスタントとして使用している場合、Googleはユーザーの入力内容を理解して応答したり、ハンズフリーのサポートを提供したりするために、追加の情報を処理します。

詳しくは、GoogleプライバシーポリシーとGeminiアプリのプライバシーに関するお知らせをご覧ください。





# 1 学習に使われるとは？

【Google Geminiアプリのプライバシー ハブ】には  
どのように書かれているのか

- Googleによるこのデータの利用方法

- ・ Googleはこのデータを、Geminiアプリの基盤ともなっているGoogleのプロダクト、サービス、機械学習技術の提供、向上、開発に使用します。詳しくは、Googleプライバシーポリシーと Geminiアプリのプライバシーに関するお知らせをご覧ください。
- ・ Googleは、ユーザーからのフィードバックを確認し、Geminiアプリの安全性の向上に役立てます。また、大規模言語モデルの一般的な問題の軽減にもフィードバックを活用しています。
- ・ Googleがユーザーデータのプライバシー、安全性、セキュリティをどのように守っているかについて詳しくは、Googleのプライバシー原則をご確認ください。
- ・ 品質の向上とプロダクトの改善 (Gemini アプリで使用される生成的機械学習モデルなど) を目的として、人間のレビュアーが Gemini アプリとの会話を確認し、注釈を付け、処理を行います。会話には機密情報を入力しないでください。また、レビューに見られたくないデータや、Google のプロダクト、サービス、機械学習技術の向上に使用されたくないデータも入力しないでください。

これはGoogleの例ですが、「データを収集し、使いますよ」と明示しています



## 2 活用事例集



### ● 東京都の活用事例集

プロンプトのコツやアイデア出しの具体的な方法などなど、大変参考になる事例集になっています。ひととおり真似をしてみることで、確実に生成AIの活用力がアップします。

※利用環境が異なりますので、必ずしも同じ結果が得られるわけではありません。

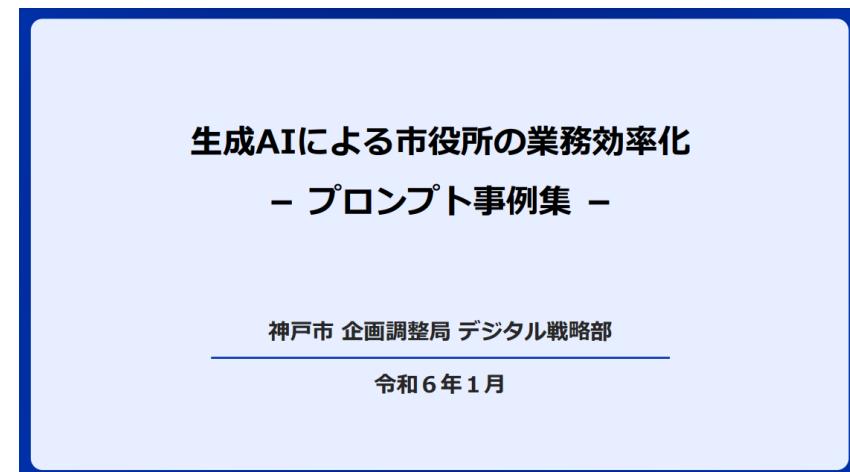


参照:<https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/business/ict/ai-guideline>

### ● 神戸市のプロンプト事例集

広報誌やSNS投稿に使えるプロンプト、KPI設定のアイデア、関数やコードのエラー対応など、自治体職員ならではのプロンプトが満載です。

※利用環境が異なりますので、必ずしも同じ結果が得られるわけではありません。



参照:<https://www.city.kobe.lg.jp/z/kikakuchose/digitalsenryaku/seiseiai.html>

# 改定履歴

版	発行月	改定内容
第1.0版	令和7年3月	初版発行